教育原理　　吉野 剛弘

授業概要

教育の歴史は長い。しかしながら、教育について自覚的に考察されてきた歴史は 2,500 年程度のものである。また、教育はかなり広範な概念であり、教育イコール学校というほど狭いものでもない。しかし、現代の教育は学校という巨大な装置に支配されていることは否定のしようがない。現にこの授業も埼玉学園大学という「学校」で行われるのであるし、近代以降の教育の歴史は学校が教育の専売特許を得ていくプロセスということも可能である（もちろんそれに対する異議申し立ても存在するのだが）。

そこで、教育というものがどのように考えられ、それが歴史的にどのような変遷をたどったのかを講義する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション：授業の方法や進め方
第 2 回	教育思想の歴史（1）：古代ギリシア・中世の教育思想
第 3 回	教育思想の歴史（2）：17～18 世紀の教育思想
第 4 回	教育思想の歴史（3）：18～19 世紀の教育思想
第 5 回	教育思想の歴史（4）：19 世紀の教育思想・教育学説
第 6 回	教育思想の歴史（5）：20 世紀の教育思想・教育学説
第 7 回	教育思想の歴史（6）：欧米の教育制度と教育思想・教育学説
第 8 回	日本の教育の歴史（1）：近代学校制度の成立
第 9 回	日本の教育の歴史（2）：近代学校制度の展開
第 10 回	日本の教育の歴史（3）：大正期の教育
第 11 回	日本の教育の歴史（4）：大正期から昭和戦前期の教育
第 12 回	日本の教育の歴史（5）：戦後教育のあゆみ（1）（1950 年代まで）
第 13 回	日本の教育の歴史（6）：戦後教育のあゆみ（2）（1960 年代以降）
第 14 回	「教育」とは何か（1）：教育の語源的・概念的整理
第 15 回	「教育」とは何か（2）：教育の権力性と不可能性
第 16 回	定期試験

到達目標

- 教育についての施策の集積である教育思想史の成果を理解できる。
- 日本の教育の歴史的変遷について理解できる。
- 教育というものが不可避的に持つ諸性質について説明できる。

履修上の注意

本科目は、子ども発達学科で中学校・高等学校の教員免許状も取得する学生が履修しなければならない科目として設定されている。教員採用試験が不可避の学生を対象にするため、必要な知識のプロットに重きを置く。よって、この授業はある程度の「覚える努力」が必要なので、選択科目として取る学生は注意してほしい。

予習・復習

予習：シラバスに掲げる項目（詳細なものを初回授業時に示す）について、参考文献やインターネットなどで確認しておく。

復習：講義内容を定着させるとともに、各授業時に示す参考文献にもあたってほしい。

評価方法

授業内で実施する小テスト（25%×2）・定期試験（50%）

テキスト

テキストは指定しない。

適宜資料を配布する。

教育原理　　松嶋 哲哉

授業概要

本授業では、教育の基礎的な概念を、歴史・思想の視点から講義をする。具体的には、大人と子どもの関係から教育の基礎的な概念を理解し（第２・３回）、近代教育の思想と教授学の歴史を学び（第４～８回）、日本の近代教育の歴史を学ぶ（第 10～15 回）。以上のことを通じて、「教育」を原理的に考察する視点・態度を身につけることを目標し、現代の私たちが無意識的に持っている「教育観」を問い直すことを目指す。授業で扱う内容は歴史的な事項が多いが、それらは全て現代の教育につながっていることであり、これらを学ぶことによって、現代の教育について原理的＝反省的にとらえていく機会を授業では設けていきたい。

授業計画

第１回	「教育」とは何かを考える（ガイダンス含む）
第２回	前近代社会における人間形成と子ども：捨子・子殺し・通過儀礼
第３回	近代家族の形成と「＜子ども＞の誕生」：アリエス
第４回	近代教育の思想と教授学の歴史（１）：コメニウス
第５回	近代教育の思想と教授学の歴史（２）：ロック
第６回	近代教育の思想と教授学の歴史（３）：ルソー
第７回	近代教育の思想と教授学の歴史（４）：ペスタロッチ・フレーベル
第８回	近代教育の思想と教授学の歴史（５）：ヘルバルト
第９回	近代教育の思想と教授学の歴史（６）：デューイ
第 10 回	近代日本の教育の歴史（1）：近世の学びの世界
第 11 回	近代日本の教育の歴史（2）：近代学校と一斉教授
第 12 回	近代日本の教育の歴史（3）：ヘルバルト主義の導入
第 13 回	近代日本の教育の歴史（4）：大正新教育
第 14 回	近代日本の教育の歴史（5）：綴方教育運動
第 15 回	近代日本の教育の歴史（6）：戦時下の教育と戦後教育改革（まとめを含む）
第 16 回	筆記試験

到達目標

・教育の基礎的な概念について、教育を成り立たせる諸要因との関係を理解できるようになる。
・教育の歴史的事実から、現代に至るまでの関係を理解できるようになる。
・教育思想から、現代の「教育」を反省的に省察する態度を身につける。

履修上の注意

第１回のガイダンス授業の際に、授業方法・評価方法・予習・復習について詳細に説明する。成績評価に関わる内容であるため必ず出席すること。なお、第 1 回目の授業に出席できない特別な理由がある場合（あった場合）には申し出て、配布資料を必ず受け取ること。

予習復習

予習：授業の最後に次回の授業資料を配付するので、その内容について読んでおくこと。
復習：毎回の授業で出された課題を確認し、理解できていない場合は授業資料を復習し、さらに学びたい内容があれば授業資料に示した参考文献を読むこと。

評価方法

授業参画度（授業態度・授業中の発言等）＝10%、授業での提出物の内容＝30%、学期末のテスト＝60%。
履修者の状況によっては、中間テストを行う場合がある。なお、教職に関する科目のため、成績評価は厳しい態度で行う。評価方法の詳細は、第１回のガイダンス授業で説明する。

テキスト

毎回、授業資料を配付する。授業内容についての参考文献は、授業資料で示すので、それを参考にしてもらいたい。